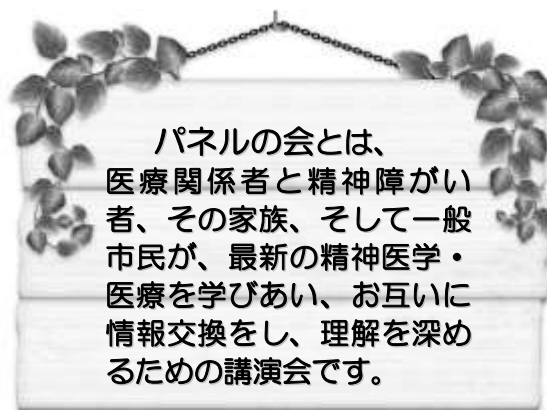


第23回研修交流会精神保健ばんだいのつどい

公開講座 「第16回パネルの会」

2015年10月30日(金) 9:00~11:30

国立磐梯青少年交流の家(福島県耶麻郡猪苗代町)



『パネルの会』は、福島県精神障がい者家族会連合会つばさ会「研修交流会精神保健ばんだいのつどい」のご支援をいただき公開講座として本年も、2日目に開催させていただきました。

今回は、9月に福島市の土湯温泉で北海道・東北精神福祉連合会の研修会が開催されましたので、例年より遅い10月末の日程でした。会津猪苗代は、もう肌寒かったのですが、見事な紅葉と好天に恵まれ、会場の眼下に広がる猪苗代湖面はキラキラと輝き、清々しい空気一杯でした。

『第16回パネルの会』には、精神障がい者ご本人、そのご家族、作業所など福祉施設スタッフ、ボランティアの学生、医療従事者など約200名にご参加いただきました。

《テーマ》

「精神科医療」と「保健福祉」の相互理解を深めよう！ ーリカバリーをめざす精神障がい者を取り巻く環境を考えるー

今回のパネルの会は、当事者、家族、精神科医師、精神障がい者を取り巻く環境にかかわる違った立場の方々から、理想とする精神科医療や保健福祉についての思いを伺い、そこから見える「理想の“違い”や“ずれ”」についてパネルディスカッションを行いました。

パネルの会会長 丹羽真一先生の挨拶により開会し、県内21か所の作業施設等からご回答いただいた「事前アンケート」について説明がありました。このアンケートとは、以下20の設問に、「・満足 ・不満 ・どちらとも言えない ・利用したことがない ・知らない」の5つの中から選びご回答いただきました。

- | | | | |
|------------------------|--------------|-----------|--------------|
| ① 保健所・保健センター精神保健福祉センター | ② 家族会 | ③ 当事者会 | ④ 作業所 |
| ⑤ デイケア | ⑥ ショートケア | ⑦ ショートステイ | ⑧ グループホーム |
| ⑨ ケアホーム | ⑩ 居住サポート事業 | ⑪ 自立支援医療 | ⑫ 特別障害者手当 |
| ⑬ 障害年金 | ⑭ 所得税・住民税の控除 | ⑮ 就労支援 | ⑯ 地域活動支援センター |
| ⑰ 自立訓練(生活訓練) | ⑱ 訪問看護 | ⑲ 訪問介護 | ⑳ 配食サービス |

お答えいただく方々には、どうゆうものなのかは説明せず、言葉そのものを知っているか尋ねています。

(*注:簡単な説明と結果をお知りになりたい方はお問い合わせください。)

ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。



初めに、福島県立医科大学神経精神医学講座の松本純弥先生と当事者の40代男性にご講演いただきました。松本先生は、事前に当事者の方にも、事前アンケートにお答えいただき、その中から、特に関わりが深い内容について、どうゆうところに満足しているか、不満を感じているか質疑応答形式で撮ったビデオを上映し、その内容にさらに分かりやすく説明を加えながら行われました。

- ⑤ デイケア ⑥ ショートケア ⑦ ショートステイ ⑫ 特別障害者手当
⑬ 就労支援 ⑭ 地域活動支援センター ⑮ 訪問看護

当事者の方の発表です。

「以前、入院をした病院では、主治医が心を開いて話してくれないと感じ、辛い気持ちでした。さらに、何の効果がるか分からないのに一方的に飲めと言われ不信感を持ちました。

そんな治療を受けていく毎日の中で今の主治医と出会い、お薬の必要性や意味や病気の理解を深めることが出来、治療に前向きになりました。その主治医は、医療者や福祉関係の人を集めて合同カンファレンスも開催してくれました。そのおかげで私は自立に向けて一歩を踏み出すことが出来ました。

今の就労支援施設を利用して日中の生活リズムを整えています。いろいろな人と出会い、いろいろな所に行き、さらに病気について理解を深めることが出来ました。ステップアップして通っている別の就労支援施設には、スーツを着て通勤し、就職に活かせるスキルを学ぶことも出来ました。しかし、私は毎日病気との闘いに疲れています。不安定な日が多く、自分の身の回りの事しかできません。そのため、毎週訪問看護とヘルパーさんのお世話になって何とか生活しています。

その中で、これから先の事を思い、禁煙とダイエットに挑戦しています。禁煙は、健康面、金銭面と医大に入院するのに必要です。半年以上頑張っています。ダイエットは、98kgから91kgになりました。85kg目標に頑張ります。これからも皆様の協力を得て自立できるように頑張りたいと思います。」

後日談:4月初めにお会いした時は、81kgになっておられました！

次に、福島県福島市でグループホームなどの支援をされているNPO法人I会のK.Wさんより、I会で行われている住居支援についての発表いただきました。

Wさんは、平成7年にグループホームを立ち上げ、以来20年間、地域の中に住まいを提供する活動を行っています。グループホームをはじめとする住居支援にとって、本当に大事なことは『当事者が障がいを持って、楽しく地域で暮らせること』。当事者が自分の思い描いたものに近い生活が出来るように、一部でもお手伝いできたらと、I会で実施している住居支援を各住居の写真を紹介しお話をいただきました。

《I会の住居支援について》

① グループホーム

世話人と呼ばれるスタッフが配置され、入居者の生活をサポートしてくれます。5か所あり、22名が利用しています。

② 共同住宅

定員が3~6名の住居が3か所あり、13名が利用しています。

③ 生活サポート付き住居

アパートを借り上げ、生活サポート付き住居として運営されています。支援内容は、相談支援(訪問・電話)、緊急時の対応(24時間365日)、金銭管理、夕食提供など。



④ 一人暮らしの支援

相談支援事業所に「サービス利用計画」を作成してもらう。ケア会議の開催により関係機関の連携が深まってきた。訪問看護、ホームヘルプ、ピアサポーター、あんしんサポート、夕食宅配などを利用します。

最後に、「精神科医療」について、「長期入院者の地域移行を積極的に進めてほしいこと」「医療保護入院者退院支援委員会は、精神科病院と地域援助事業者との連携のチャンスなので、地域援助事業者を呼んでほしい」という要望を伝えてくださいました。

その後、ご家族様にもご発表をいただき、最後に、福島県会津若松市の精神保健福祉ボランティア「M」でボランティアをされている M,O さんからご発表いただきました。

メンバーは、平成20年度に会津保健福祉事業所主催の「精神保健福祉ボランティア講座」を受講し、その後、支援活動についての理解や組織作りの方法について研修を積み重ね「M」を立ち上げられた時の事や、朝の挨拶や弁当作り作業が終わり、ホッとした安らぎの時にメンバーさんと話のできる時間が、ボランティア活動を続けてきて良かったと思ひ、家族会では、毎月いろいろな計画が立てられており、お医者さんや臨床心理士の方から、精神障がいについての知識や情報を学び、支援に役立てていること。当事者が、夢や希望を話せることが、心と体の回復につながってきていること。就労の訓練や社会生活における体験等が、当事者の方の心身を元気にしていくものと感じ、ボランティアは、関係者との情報の共有、抱え込まない支援、つなぐ役割が大切であると強く感じていることをお話くださいました。

・主なボランティア活動:

- ◆ 「障がい者地域家族教室」への参加と学習
- ◆ 「精神保健ばんだいのつどい」の支援
- ◆ 会津地域「精神に障害を持つ方々と地域の交流会」
- ◆ 当事者宅の作業支援と悩み相談の相手
- ◆ 会津若松市ボランティア連絡協議会との連携

休憩を挟み丹羽真一先生の進行により、パネリストの皆様が、「グループホームに入るにはどうしたらいいか?」「いくらかかるのか?」など会場からの具体的な質問に答えながら活発にディスカッションが行われました。

参加者のご感想の一部をご紹介します。

- ・当事者や当事者を支えてくださっている方々の立場で物事が見られたので、とても勉強になりました。色んな方々から私たち当事者を助けてくださって本当に助かっています。ありがとうございます。
- ・グループホーム等の説明等の発表を自分の会に生かしていきたい。当事者の思いが、まっすぐに伝わってきて、胸に響くものがありました土日の過ごし方も当事者にとって大変なことなのだと気づかされました
- ・パネルの会の活動がこんなに素晴らしいものであることを今回初めて知りました。ブレインバンクの活動が中心とばかり考えておりました。家族会の親にもぜひ聞かせていただきたい内容ばかりでした。丹羽先生のお話はとても分かりやすく有難かったですが本人には難しかったかな。
- ・アンケート結果を伺い、全体では 6 割の満足度のことでしたが、サービスを個別に見ていくと広まっているサービスとまだ知られていないサービスについて現状を知ることが出来ました。それを基にした松



本先生と当事者のメッセージは心に響きました

- 当事者、家族の方の話が聞けたこと。話を聞いてほしい(聞いてくれた)という発言が何度もあり、施設スタッフとして改めてその大切さについて確認できました
- 当事者の方、家族、現場で日々様々なことに対応している生の声を聞くことができました。当事者、家族の方がサービスの担い手や行政の施策を作るメンバーになることは現状を変化させ、前進させることには不可欠だと思います。福島でFACTを立ち上げてください
- 初めて参加させていただきました。今まで存在も知らずにおりました。きっと情報は流れていたと思いますがキャッチできずにおりました。大変有意義でした

ご来場いただいた皆様、ばんだいのつどい実行員会の皆様に心より感謝申し上げます。

なお、第16回パネルの会は、公益信託うつくしま基金「100年後も…いきいき ふくしま うつくしま実践コース」の助成を受け開催することができました。誠にありがとうございました。

平成28年度「第17回パネルの会」ご案内

7年間、福島県精神障がい者家族会連合会つばさ会のお力添えをいただき、「研修交流会精神保健ばんだいのつどい」の公開講座として、パネルの会を開催させていただいておりましたが、本年度は、「ふくしま未来研究会」の助成により、「福島市のコラッセふくしま」で開催することになりました。

テーマは、多くの方の要望に添えるよう検討しています。決まりましたら、10月の会報、またはホームページでお知らせいたします。

年末の気ぜわしい頃の開催となりますが、是非、冬の福島にいらしてください。

日程: 12月17日(土) 午後

場所: コラッセふくしま (JR福島駅西口から徒歩5分)

事前アンケート 「精神科医療」と「保健福祉」について（自由記述より抜粋）

～当事者本人～

- もっと話を聴いてほしい
- 健康で社会復帰したい
- 精神医療も保健福祉も最近大分良くなったように思います。
- 先生によって精神科医療の満足感には開きがあるように思います。今のところ私はあまり満足していません。精神科医療と保健福祉の相互関係によって成立していると理解しています。
- 地域の方々に偏見の目で見られないようになってほしい。
- 精神科は社会と大きく関わりがあるのではないかと考えます時に社会全体が健康にならなければと思います。
- 主治医が雑談してくれるので良い。薬の内容を説明してくれるので良いと思っている。
- 優しい人たちに囲まれて幸せです。
- 今のままでいい。
- 法律、決まりが直ぐ変わって覚えられない。
- 拡充、充足の必要あり。
- 「精神科」と言われるのが嫌です。
- 診察時に1人1人との時間帯などに不満。親身に聞いて良いアドバイスなどが欲しい。
- 保健福祉も何がどうで検査サービスがあるか教えて欲しい。
- 精神科医療は、人の交流があれば楽しい。
- 現在は、自分や家族や周りの皆様と努力中ですが、近未来に向けて生活をどうしていくかアドバイスやシミュレーションを教えてほしい
- 今のところはまだ私の努力の余地はあると思い、希望をもって医療を受けています。精神障害は克服したいと強く思うので自分に合った医療が受けられればいいなと思います。
- ずれてないと思います。大変満足しています。
- 自立のための経済的な補助がもう少し充実させて欲しいです。
- 利用する人の立場に立ったサービスを希望します。

～当事者の家族～

- 当事者の日常生活のしづらさに対して、公的支援は行き届いていない！ 交通機関の無料化、就労にはかなり差別を感じる。
- 私の住んでいる地域では精神科医療で入院施設があるのは1院だけで、クリニックその他は整っていないと思われます。しかし病気が発症するのは日中ばかりではないので、そのあたりをもう少し当事者および家族のことを考えて医療施設が動く様に働きかけてもらいたい。
- 現在の医療は全面的に良くなっていることで有難いことですが、親にとっては死ぬまで死んだ後まで心配がありますが安心できるような社会福祉体制が良くなって欲しいです。
- アウトが出来れば非常に助かります。作業所が市民や家族に開かれた場所になって欲しいと思います。
- 連携が必ずしも取れていない面がある。一層の連携と充実が望まれる。
- 医療は、本人の要望ですぐ薬を増やすので、もっと状態や様子を見てほしい。
- 医療については、当事者の話をもっと聞いてほしい。カウンセリングの医師を増やしてほしい。
- 保健福祉については年金の額が少ない。
- お医者さんをお願い！ 診察時にパソコンばかりでなく本人の顔をみながら診察してほしい。